

# 笑顔広がる 寄り添う介護をめざして



## 看護・介護理念

- 1 私はち人として、人間らしく前向きに生きていくために、病気や障害があっても、健康に暮らしていくことをめざし、共に向き合います。
- 2 人権を守り進める医療、福祉を追求し、住み慣れた地域で療養できる看護、介護を実践していきます。



## 事業所紹介

### 老人保健施設はびろの里

在宅での生活を見据え、長期入所・短期入所など利用者様の要望に合わせた入所受け入れをしている療養棟と通所リハビリ、小規模多機能を併設している施設です。利用者様が安心して暮らせるよう、様々な職種が連携しつつ在宅復帰を目指す取り組みを進めています。

### 看護小規模多機能・小規模多機能 事業所

介護と看護、リハビリなどの他職種で関わり、訪問(介護・看護)・通い・お泊りを複合かつ柔軟に組み合わせ、自宅と事業所の両方で支援します。医療的ケアが必要になってもしっかりと家族と共に最期まで慣れ親しんだ地域や場所で支えることができます。

## 一生に一度の振り袖を着たい

グループホームに入居されたAさんは、毎年の誕生日には家族水入らずで食事会を開き、お祝いするのが恒例でしたが、コロナ禍の影響により外出はもとより、家族との交流もままならない日々を送っていました。「今年の誕生日はドレスを着物をお祝いでもしましょかね」冗談交じりに職員が聞くと、「若い頃は戦争で振り袖なんか着ることなんて出来なかった。生きる事に必死だった」と悲しそうな表情を浮かべました。家族に会えない寂しさと、若い頃に着ることの出来なかった振り袖への想いに職員が寄り添います。施設で着物を用意し、特別に面会許可を頂き家族と共に90歳の誕生日をお祝いしました。

一緒に笑ってほしい

### 「家に帰りたい・娘の顔がみたい」 Bさんの想いに寄り添う

Bさんは60代で進行性の難病を患っていました。徐々に病気が進行していく母を受け入れる事が出来ないう娘との2人暮らし。はびろの里に入所して間もなく、他愛ない会話の中で「家に帰りたい・娘の顔がみたいの…」と本人の想いを聞いた職員が「何とかしてあげたい!!」とカンファレンスで発信しました。Bさんの母としての想いを大切に、チームで在宅復帰調整を始めます。関係者で何度も話し合いをすすめ、数日間の自宅での暮らしを実現。反抗期であった娘さんも徐々に気持ちが変わり、「ありがとうございました。」と感謝の言葉も頂けるようになります。最期は、目で物を追うことすらままならない状態となり病院で息をひきとられました。本人の想いに寄り添い、チームで諦めずに取り組むことの重要性を学びました。

### 訪問介護事業所

ご本人の「やっぱり家で暮らし続けたい」に寄り添います。住み慣れた場所で、その方らしい生活を安心して自宅で送れるよう支援します。

### グループホーム

認知症の方と、顔なじみの職員で穏やかな時間を過ごしています。家庭的な雰囲気作りを心がけ、その方の「物語る命」に寄り添い、その方らしい生活と人生を支える介護を実践しています。

私たちは、利用者様・患者様が生きてこられた『物語られるいのち』に寄り添う介護の提供をめざしています。

